

『倉敷川の白鳥のお話』

倉敷美観地区の中を流れる倉敷川には、古くから白鳥が住んでいます。明治時代に一度白鳥を放鳥したという資料が残っているのですが定かではありません。ただ、昭和 50 年代にはたくさんの白鳥が倉敷川に生息していました。水も綺麗で小魚などの餌が豊富に存在していたからだと思います。ただ、60 年代になると川は汚染されて随分と白鳥は減っていたようです。それでも今も倉敷川の白鳥は生息を続けており、ひなも生まれています。



白鳥にまつわる話で、若かりし頃の失敗談を聞いてもらおうと思います。聞いたことがある方もおられるかもしれませんがご勘弁ください。まだ大学の頃の話です。一学期が終わって夏休みが始まり、それぞれの実家へ帰郷する前に、仲の良い友人と美観地区のスナックに飲みに行くのが恒例となっていました。夜中の一時頃まで飲んで、美観地区の中の倉敷川の横を歩いてワイワイ喋りながら、倉敷駅まで歩いてタクシーでそれぞれ下宿に帰るのが常でした。その日は夜中なのに異常に暑く、ふと倉敷川に目をやると、幾つかの街灯に照らされている川は非常に澄んで見えて、急に泳ぎたい衝動に駆られました。パンツ 1 丁になって、脱いだ服は友人に預けて、倉敷川には降りるための階段(昔は洗濯や野菜を洗っていた)があるのでそこから水面ギリギリまで降りてゆっくりと川に入りました。友人は 10 人ほどいたのですが誰も止めようとはせず、どちらかというときしかけられていた記憶があります。現在では、30cm 位の深さになって下も綺麗なジャリになっていますが、逆に水質は悪いです。当時は 60-70cm くらいの深さで底はガラスの破片なども混ざっている足をつけるのには危険な川底でしたが、昭和 50 年代ですので水は思いのほか澄んでいて綺麗でした。2 号線の脇から水に入って北へ向かって、顔をつけるのは嫌なので、顔を上げた平泳で足が底につかないように泳いでいました。それほど冷たくもなく、角まで約 60 メートルほど泳げば、上がる階段がまたありました。順調に半分くらい泳いだ時に、前から白鳥がやってくるのが見えました。夜の倉敷川を白鳥と一緒に泳げるなんて粋なもんだなと思っておりました。白鳥は私の左横を通り過ぎて後方に行ったなと思った次の瞬間でした。背中に強烈な衝撃と痛みを感じました。なんと通り過ぎた白鳥が U ターンして左横後方から長い首を上下に振ってくちばしで私の背中を強烈な勢いで突っついていたのでした。底が危険なので立ち上がることはできず、泳法をクロールに変えて全力で泳いで逃げたのですが、白鳥の推進力は凄まじく、ずっと背中に攻撃を受け続けていました。頭や顔を狙われなかったのは幸いでした。友人も最初は笑っていたようですが、途中から深刻さに気づき、近くに落ちていた棒などで水面を叩いたり大声を上げて白鳥を威嚇してくれてました。そのおかげで、川から上がる階段が近づいたところでは白鳥の攻撃は終焉を迎えました。幸い、背中の内出血は相当なものでしたが、筋肉や骨には大きなダメージはなかったようで、帰郷してすぐにゴルフができたのを覚えています。白鳥の寿命は 30 年から 60 年と言われており、このエピソードは 45 年くらい前ですのでもしかしたら、今も倉敷川を泳いでいるのはあの時の白鳥かもしれません。